



Japan Digest No.11

第6回 WEAAD 無事終了！

2011年9月13日(火)

INPEA 日本国委員会会員各位
第6回 WEAAD 参加者各位

東京は、今日は残暑です。

台風による土砂災害、豪雨は甚大なものでしたが、皆様におかれましては、残暑に負けず、ますますご健勝のことと心からお慶び申し上げます。

さて、世界 50 カ国にネットワークを持つ INPEA (高齢者虐待防止国際ネットワーク) の日本国委員会事務局は、去る7月10日(日)に、**第6回目の「世界で高齢者虐待防止について考える日」(The Sixth Annual World Elder Abuse Awareness Day: WEAAD)**※) イベントを、市ヶ谷にある私学会館アルカディア市ヶ谷(伊吹の間)で開催し、全スケジュールを無事成功裏に終えました。

今年は、諸般の理由で、日程がなかなか定まらず、毎年 WEAAD のイベントは、6月15日前後に行われていたましたが、今年は約1ヶ月遅れで開催できました。北は八戸、西は四国からのご参加を得ました。第6回の WEAAD のイベントにご参加いただきました皆様、日曜日の暑い中、本当にありがとうございました！

本ジャパン・ダイジェスト11号は、主に第6回 WEAAD のイベントの様子や世界 INPEA の新役員の紹介等をしたと思います。

※) WEAAD の趣旨: 世界 INPEA が毎年6月15日を「世界で高齢者虐待を考える日」(WEAAD: World Elder Abuse Awareness Day)と2006年に定めました。その趣旨は、高齢者虐待が、「グローバルな社会問題」であるという認識を高めると同時に、効果的な対応の必要性を再確認し、この日を機会に高齢者虐待の問題を予防する活動が、次の一年さらに長期の目標に向けて推進するようとの願いで2006年から始められたものです。

世界 INPEA の URL は、こちら、<http://www.inpea.net/> です。



1. 第6回日本のWEAADのイベント

今年は、川端伸子(財団法人東京都福祉保健財団高齢者権利擁護支援センター長)氏と世界INPEA理事の多々良紀夫(淑徳大学大学院総合福祉研究科教授)氏に、各1時間講演をお願いしました。講演者の先生方、日曜日にも関わらず、貴重なお時間、有難うございました。

まず、川端氏は、「東京都高齢者権利擁護推進事業の取り組み:高齢者虐待対応現場で使える書式紹介を通して」の題目で、高齢者虐待防止法の特徴や、高齢者虐待対応において課題を把握していく為の書式の開発の歴史とそれらの紹介、そして、「とりあえず」で休止している虐待対応の現況に警鐘を鳴らし、関係諸機関が連携することの大切さを指摘されました。また、同時に、多くの書式を紹介してくださいました。

次の講演者である、多々良先生は、「高齢者虐待対応の法制化、研究、教育及び実践:これからの日本はアメリカから何を学ぶべきか」という題目で、我が国の高齢者虐待防止法がお手本としたアメリカの家庭内暴力対応の法制化の歴史や内容、積まれた研究実績、ソーシャル・ワーカーの最先端の日米比較等を通して、我が国の学ぶべきことを、一言で言うなら、大学生を含めた虐待対応の人材育成をまとめられました。

最後に、閉会の言葉は塚田が担当いたしました。そもそも、この高齢者虐待防止＝高齢者の人権を護る、という視点からは決して忘れてはならない、Robert N. Butler 博士(ロバート・バトラー博士)の紹介をさせていただきました。バトラー博士は、昨年7月にNYで逝去されましたが、アメリカにおける人種差別、性差別、そして第3番目の差別である、“Ageism(高齢者差別・年齢差別)”という言葉をもっと創った人です。ご専門は精神科医であり、「回想法」という認知症に役立つ治療法を開発されただけでなく、アメリカで老いることの意味を問うた著書、“Why Survive?”では、アメリカ最高栄誉のピューリッツァー賞を受賞され、さらには、後輩の育成にも力を注ぎ、アメリカで最初の老年医学部を創立した人でもあります。ゆえに、「老年学の父」とも呼ばれています。高齢者の人権を護る立場にいる我々の、日々の実践・研究の土台を築いてくださったバトラー博士の死を悼むとともに、心からのご冥福をお祈り申し上げます。



第6回 WEAAD の会場の様子

最後に、イベントが終わり、32名の参加者のうち時間が許せる方々と、恒例の全体写真撮影をいたしましたので、下に掲載させていただき、ご参加への御礼を申し上げます。



第6回 WEAAD のイベントを終えて

☆イベント終了後も、講演者の一人に参加者が質問をしにこられ、熱心にメモを取られる姿が印象的でした。 → → → → → → →



なお、会場設定・受付等のボランティアをしてくださった日本大学大学院グローバル・ビジネス研究科(NBS)OGの五島さん、淑徳大学大学院後期課程の勝亦さん、そして、後片付けの手伝いをして下さいました同じくNBSのOBの菊地原さん、本当にありがとうございました！！この場を借りて、御礼申し上げます。

2. 世界 INPEA の新役員の紹介

INPEAの国際組織は、1998年2月にカナダトロントで行われた会員総会の場で、正式に設立されました。2003年6月には、国連助言機関にも認定され、世界INPEAはますます活発に活動を進めています。2010年には、初めて役員【選挙】が行われ、INPEAの会長を始めとする役員が変わりました。詳細は、世界INPEAのHP(<http://www.inpea.net/>)をご高覧下さい。

新会長は、カナダの Gloria M. Gutman(Ph.D)氏、そして副会長は、レバノンの Nabil Kronfol (MD, Dr.PH)氏です。これまで会長として世界を駆け回ってくださった、アルゼンチンのリア・ダイチマン(Lia S. Daichman(M.D))氏に、心から感謝いたしたいと思います。

なお、多々良先生は、世界 INPEA 理事として引き続き活躍されます。塚田(日本国代表)は新規定によれば今年の 8 月前後で任期が切れるということです。詳しいことは今年の秋11月に開催される米国老年学会(GSA)で確認してきます。つまり、新しい日本国委員会の代表を選出しなければならない時期となりました。また、世界 INPEA 新執行部によりますと、今度から会費を徴収しなければならないとのことで、頭を痛めています。この件についての詳細は、今年 11 月の学会後に、皆様にご連絡をさせていただきますが、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

3. 第64回米国老年学会 (GSA: Gerontological Society of America) のご案内

来る 11 月 18 日(金)から 22 日(火)まで、アメリカボストンで、第 64回米国老年学会(GSA)が開催されます。アメリカで最大の老年学会です。学会の詳細は、GSA の HP である <http://www.geron.org/> の annual meeting の項をご高覧下さい。今年は、私も大学院の入試と重ならないので2年ぶりに参加できます。11 月 20 日(日)には、多々良先生が司会を務められる、Interest group “Prevention of Elder Abuse and exploitation”の会合がありますので、それに参加して、皆様に内容をお伝えしたいと思っています。

それでは、末筆となりましたが、皆様の益々のご活躍とご健康を祈念しながら、筆を置きたいと思います。

INPEA 日本国委員会代表 塚田典子
日本大学大学院グローバル・ビジネス研究科
電子メール: tsukada.noriko@nihon-u.ac.jp
Tel: 03-5275-9430(研究室直通)
Fax: 03-5275-8386(講師室受け取り)
日本 INPEA の URL: <http://www.inpea.jp>